

自己評価報告書

平成 23 年 3 月 31 日現在

機関番号：17601

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20330145

研究課題名（和文） 発達障害の早期診断・早期介入システムの開発実践

研究課題名（英文） The Development of Early Diagnosis and Intervention System for Developmental Disorder Suspected Children

研究代表者

立元 真 (TATSUMOTO SHIN)

宮崎大学・教育文化学部・准教授

研究者番号：50279965

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・臨床心理学

キーワード：発達障害,ペアレントトレーニング,周産期睡眠リズム形成, LD ,ADHD

1. 研究計画の概要

本研究は、以下の仮説・問題を検討することを目的として、研究継続中である。

胎児期の睡眠リズム形成状況が発達障害の発生を予測するか否か

ADHD児,LD児,発達障害サスペクト児その他の発達障害のリスクを持つ子どもへの早期介入による,保護者・子どもの行動への効果検証

ADHD児,LD児,発達障害サスペクト児,その他の発達障害のリスクを持つ子どもへの追加的介入プログラムの改善効果の検証

2. 研究の進捗状況

目的 のために、引き続き、周産母子センターにおいて出生した子どもから、睡眠リズムの形成が遅れた子ども、睡眠リズムの形成が通常である子ども、低体重で出生した子どもを抽出し、発達検査の査定および診断を行った。

さらに、保護者評定による「子どもの行動傾向測定尺度(CSB-RS)」によって日常の子どもの行動傾向を測定した。なお、CSB-RSについては、標準化および測定の妥当性・信頼性確認のデータを論文化した。

目的 , については、発達障害リスクのある子どものための、標準的介入プログラムおよび追加的介入プログラムの実践を継続している。標準介入プログラム、および、追加的介入プログラムとしての「養育スキル教室」については、計画の前半において得たデータをまとめ、それぞれ発表した。さらに、標準介入のプログラムにおける副次的な効果を国際学会において発表した。

本研究の成果は、今年度末までにひととお

りまとめる。しかし、調査対象児にみられる神経学的・心理学的な問題が予想以上にバラエティに富んでいるため、明確な結論を導くためにはさらに多くのサンプルが必要であり、活動を継続していく研究上の理由が明らかになってきた。さらに、周産母子センターと障害が明らかになった子どもの療育センターを繋ぐ機関としての機能が評価されてきたため、活動を安易に中止できない事由も生じてきた。そのため、次年度は、調査サンプルを増やす試みを続けるとともに、より効率をあげつつ活動を継続していく方策を模索していく。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

研究計画に記した目的を曲がりなりにも達成するという意味では、主観的には、7割程度の作業は達成されてきたと感じている。ただし、研究遂行の過程で、幼児期早期のADHD児,LD児,発達障害サスペクト児,その他の発達障害のリスクを持つ子どもにみられる神経学的・心理学的な問題は、研究着手時の予想以上にバラエティに富んでいるため、明確な結論を導くためにはさらに多くのサンプルを必要とすることが明らかになってきた。その意味では、達成のゴールはむしろ遠ざかったと感じている。

4. 今後の研究の推進方策

本研究の成果は、今年度末までにひととおりまとめるべく、ルーチンの検査及び介入を継続する。しかし、調査対象児にみられる神経学的・心理学的な問題が予想以上にバラエティに富んでいるため、明確な結論を導くためにはさらに多くのサンプルが必要であり、

活動を継続していく研究上の理由が明らかになってきた。さらに、周産母子センターと障害が明らかになった子どもの療育センターを繋ぐ機関としての機能が評価されてきたため、活動を安易に中止できない事由も生じてきた。そのため、次年度は、調査サンプルを増やす試みを続けるとともに、より効率をあげつつ活動を継続していく方策を模索していく。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

立元真 古川望子 福島裕子 永友絵理
2011 宮崎大学教育文化学部附属教育実践総合センター研究紀要, 19号, 39-47.

立元真 古川望子 福島裕子 永友絵理
2011 保育者の養育スキル研修が幼児の行動に及ぼした効果 宮崎大学教育文化学部紀要 24号 教育科学 1-10.

大西淳仁 鮫島浩 池ノ上克 2010 胎児心拍数モニタリング--胎児低酸素症の発症を予測できるか 産婦人科の実際 59(3), 319-324

立元真 福島裕子 松原耕平 2010 幼児期の子どもを持つ母親への配偶者の心理的サポートが育児と子どもの問題行動に及ぼす影響 宮崎大学教育文化学部附属教育実践総合センター研究紀要, 18号, 1~10

甲斐克秀 鮫島浩 2008 胎児モニタリングと脳障害予防への戦略 周産期医学 38(6), 743-746.

立元真 坂田和子 2008 幼児をもつ母親の養育スキルとストレス反応 乳幼児医学・心理学研究 第17巻1号 83~91.

[学会発表](計10件)

住吉香恵子 川越靖之 鮫島浩 池ノ上克
2010 胎児心拍数モニタリングにおけるcyclic changeと脳血流との関連 日本産科婦人科学会雑誌 62(2), 374.

Shin TATSUMOTO 2010 THE EFFECT OF PREVENTIVE BEHAVIORAL PARENT TRAINING TO MOTHERS HAVING PRESCHOOL CHILDREN. The EABCT 2010 XL Congress of European for Behavioral and Cognitive Therapies

立元真 福島裕子 古川望子 永友絵理 2010 リスクを抱える子どものための個別BPTフォローアップ ~基本BPTセッションの効果と維持~ 日本行動療法学会第36回大会

立元真 2010 保育者の養育スキル研修が幼児の行動に及ぼした効果 日本乳幼児医学・心理学会第20回大会

立元真 永友絵理 古川望子 福島裕子

2010 出生時にリスクを認められた子どものフォローアップ介入~ペアレント・トレーニング介入による発達支援の試み~ 日本赤ちゃん学会第10回学術集会

立元真 福島裕子 2009 幼児を持つ親への予防的親トレーニングの試み(5) ペアトレはどんな子にどのように効いたのか 日本行動療法学会第35回大会

立元真 2009 幼児を持つ親への予防的親トレーニングの試み(4) 介入前の養育スキル特性による検討 日本心理学会第73回大会

立元真 2009 ペアレントトレーニングの基礎と介入効果 宮崎県小児保健学会

住吉香恵子 川越靖之 岩砂智丈 鮫島浩 池ノ上克 2009 胎児心拍数モニタリングを用いたリズム形成時期と幼児期の発達との関連 日本産科婦人科学会雑誌 61(2), 723.

立元真 2008 幼稚園におけるSSTとペアレント・トレーニングのコラボレーション実践 日本行動療法学会第34回大会